

ハンドボール NO1

第77回国民体育大会いちご一会とちぎ国体

試合結果・戦評報告書

競技日	10月 9日 (日)	試合番号	⑩	回戦	準決勝
種別	少年男子	会場	マルワアリーナ		
Aチーム名			Bチーム名		
大阪			千葉		
得点合計	小計		小計	得点合計	
34	17	前半	15	28	
	17	後半	13		
		第1延長前半			
		第1延長後半			
		第2延長前半			
		第2延長後半			
		7mTC			

戦評

ここまで安定した試合運びを見せる大阪と山梨との延長に及び接戦をものにして勢いに乗る千葉の対戦となった少年男子準決勝第1試合。試合序盤、大阪は⑩橋を中心とするディフェンスからの速攻で、千葉は多彩なセットオフenseで得点を重ね、前半8分で5対5と一進一退の攻防が続く。その後も互いに得点を積み上げる展開が続くが、千葉が④今井のミドルや巧みなディスタンスで得点を奪い、前半14分8対11と先行し、この試合初めての3点差がつく。点差を詰めたい大阪は、得意の速攻や③尾上のミドルなどの3連取で同点とする。その後も攻撃の手を緩めない大阪は、⑨竹下を中心とするセットオフenseで4連取し、前半23分15対12とする。千葉は、大阪④勝村が退場している間に④今井の7mTなどで得点を奪い、17対15で前半が終了した。

後半開始から大阪は攻勢を強め、9分間で8点を奪うことに成功し、後半9分25対18とリードを広げる。大阪はその後も得点を重ね続け、後半13分に28対18とし、この試合最大の10点差がつく。これ以上のリードは許せない千葉は、④今井のミドルを中心にオフenseを組み立て、後半18分29対22と点差を詰める。さらに千葉は、大阪⑩橋が退場している間などに速攻で得点を挙げ、後半27分に31対26と5点差とする。大阪は再び退場者を出す、冷静にボールを回し時間を使って攻め、千葉に速攻を許さず、34対28で逃げ切った。

記載者氏名

後藤 秀生

送信日時

10月 9 日 (日) 11:20